

がん原性試験評価委員会結果報告書

(化学物質管理支援事業)

平成 2 1 年 3 月
中央労働災害防止協会

がん原性試験評価委員会

1. 目的

化学物質の中には、その有害性が十分に把握されないまま労働の現場で製造・使用され、職業性疾病につながるものが少なくないことから、厚生労働省では、昭和57年度より、国内で大量に使用されている化学物質について、中央労働災害防止協会・日本バイオアッセイ研究センターに委託することにより、実験動物を用いたがん原性試験を実施している。

本委員会は、上記がん原性試験の結果を評価し、厚生労働省による必要な対応に結びつけるため開催するものである。

2. 検討事項

- (1) 吸入暴露による臭化ブチル（1-ブロモブタン）のラットとマウスに対するがん原性試験の結果
- (2) 経口与による 2-アミノ-4-クロロフェノールのラットとマウスに対するがん原性試験の結果

3. 委員会の構成

委員は、がん原性試験の結果を評価するに当たって専門的な知識及び経験豊富な専門家によって構成した。

○清水 英佑

中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 所長

津田 洋幸

名古屋市立大学大学院 医学研究科 分子毒性学分野 教授

西川 秋佳

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 病理部長

前川 昭彦

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター・安全審査課 技術顧問

○：座長

4. 開催状況

平成21年1月9日(金)

5. 検討結果

- (1) 吸入暴露による臭化ブチル (1-ブロモブタン) のラットとマウスに対するがん原性試験(資料1のとおり)

「がん原性を示す証拠が得られた」との結論に至った。

- (2) 経口与による 2-アミノ-4-クロロフェノールのラットとマウスに対するがん原性試験(資料2のとおり)

「がん原性を示す証拠が得られた」との結論に至った。